本文

官報

第八千百五十七號　明治四十三年八月二十九日　月曜日　印刷局

○府令

統監府令第四十七號

明治四十三年統監府令第四十四號警務部及警察署ノ名稱、位置及管轄區域表中左ノ通改正ス

明治四十三年八月二十日　統監　子爵寺內正毅

「南部警察署東大門分署（京城東大門）」ノ項ヲ削リ「北部警察署（京城校洞）」ノ項ノ次ニ「北部警察署東大門分署（京城東大門）東署一圓（憲兵分遣所管內ヲ除ク）」ヲ加フ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○告示

內務省告示第百十號

古社寺保存法第四條ニ依リ左記ノ建造物ヲ以テ特別保護建造物ノ資格アルモノト定ム

明治四十三年八月二十九日

內務大臣　法學博士男爵平田東助

名稱	構造形式	所在地名
相國寺本堂（法堂）附玄關廊	本堂、桁行七間、梁間六間、重層、屋根入母屋造、本瓦葺　玄關廊、桁行四間、梁間一間、單層、屋根切妻造、本瓦葺	京都府京都市上京區相國寺門前町
敎王護國寺四脚門（北總門）	四脚門、屋根切妻造、本瓦葺	同下京區九條町 敎王護國寺境內
同寺東大門（不開門）	八脚門、屋根切妻造、本瓦葺	同寺境內
同寺南大門	八脚門、屋根切妻造、本瓦葺	同寺境內
知恩院本堂（御影堂）	桁行十一間、梁間九間、單層、屋根入母屋造、本瓦葺	同林下町 知恩院境內
同寺書蓮堂（觀音堂）中門（大觀門）及迴廊	中門、四脚門、單層、屋根切妻造、本瓦葺　迴廊、左右各正面、桁行二間、梁間一間、側面、桁行三間、梁間五間、單層、屋根入母屋造、本瓦葺	同寺境內
崇福寺誾法堂（誾帝堂又觀音堂）	桁行三間、梁間五間、單層、屋根入母屋造、本瓦葺	同高野平當鄉 崇福寺境內
同寺鐘樓	桁行三間、梁間二間、重層、屋根入母屋造、本瓦葺	同寺境內
七寺本堂	桁行五間、梁間五間、單層、屋根四注造、本瓦葺	愛知縣名古屋市門前町七寺境內
福壽院塔婆（多寶塔）	三間二層塔婆、屋根檜皮葺	同中島郡一宮町 福壽院境內
嚴島神社末社（豐國神社本殿（千疊敷又千疊閣））	桁行間十三間、梁十五間、梁間八間、單層、屋根入母屋造、本瓦葺	廣島縣佐伯郡廿日市町 嚴島神社境內
風濕神社石塔婆（正平塔）	五層石塔婆	福岡縣三潴郡大川町 風濕神社境內

內務省告示第百十一號

古社寺保存法第四條ニ依リ左記ノ物件ヲ以テ國寶ノ資格アルモノト定ム

明治四十三年八月二十九日

內務大臣　法學博士男爵平田東助

等級	種類	品	所有者
甲種四等	繪畫	絹本著色十六羅漢像	東京府東京市麻布區麻布本村町 天眞寺
丙種	書籍	紙本墨書三寶絵詞　文永十年ノ奥書アリ　三冊	京都府京都市下京區九條町 敎王護國寺

許可 8157 号 本文

任兵庫縣川邊郡長　兵庫縣氷上郡長正六位勳五等　森　重毅
敍高等官五等　兵庫縣川邊郡長　森　重毅
任兵庫縣多紀郡長　兵庫縣攝保郡長正六位勳五等　藤井　雅太
敍高等官五等　兵庫縣多紀郡長　藤井　雅太
任兵庫縣攝保郡長　兵庫縣多紀郡長正七位勳六等　安達儀一郎
敍高等官六等　兵庫縣攝保郡長　安達儀一郎
任兵庫縣氷上郡長　兵庫縣氷上郡長正七位勳六等　前川　萬吉
敍高等官五等　兵庫縣氷上郡長　前川　萬吉
任兵庫縣多可郡長　兵庫縣事務官補正七位勳六等　田中　八作
敍高等官五等　兵庫縣多可郡長　田中　八作
任兵庫縣事務官補　兵庫縣事務官補正七位勳六等　新田　喬雄
敍高等官七等　兵庫縣事務官補　新田　喬雄
任兵庫縣警視　兵庫縣警部勳八等　小林　波吉
敍高等官八等　兵庫縣警視正七位勳五等　野村　勝三
任福島縣安積郡長　福島縣安積郡長從六位勳五等　金指　清
敍高等官五等　福島縣安積郡長　金指　清
任福島縣北會津郡長　福島縣北會津郡長從六位勳五等　小田原勇角
敍高等官五等　福島縣北會津郡長　小田原勇角
任福島縣相馬郡長　福島縣警視從七位　橋本　武敏
敍高等官七等　福島縣警視　橋本　武敏
任福島縣信夫郡長　福島縣屬從七位　佐瀬　剛
敍高等官八等　福島縣屬　佐瀬　剛
任福島縣石川郡長　福島縣信夫郡書記　橋本　武敏
敍高等官八等　福島縣信夫郡書記　橋本　武敏
任福島縣大沼郡長　福島縣大沼郡書記勳八等　坪内　元彦
敍高等官八等　福島縣大沼郡長　坪内　元彦
任福島縣白川郡長　福島縣田村郡書記勳八等　坪内　元彦
敍高等官八等　福島縣田村郡書記　坪内　元彦
任福島縣大沼郡長　福島縣屬從七位　橋本　藤太
敍高等官七等　福島縣屬　橋本　藤太
任福島縣相馬郡長　福島縣警部勳八等　淺野　虎吉
敍高等官七等　福島縣警部　淺野　虎吉
任福島縣警視　福島縣警視從七位　小田原勇角
敍高等官八等　福島縣警視　小田原勇角

（各通）

依願免本官　統監府判事　洪　祐夔
（各通）　兵庫縣川邊郡長　肥田野五郎
願ニ依リ本職ヲ免ス（以上十八月二内閣）　福島縣相馬郡長　成田　直忠
免本職（十八月二陸軍省）　福島縣北會津郡長　小松　利忠
東京稅務監督局管内ヘモ出張ヲ命ス（十八月二大藏省）　福島縣大沼郡長　富田　善吾
免本職補歩兵第六聯隊中隊長　福島縣石川郡長　加藤八次郎
免本職補歩兵第十四聯隊中隊長　福島縣警視從七位　野村　勝三
免本職補歩兵第二聯隊中隊長　福島縣北會津郡長　金指　清
免本職補歩兵大隊副官　福島縣相馬郡長　小田原勇角
免本職補歩兵第七十二聯隊附　福島縣信夫郡長　佐瀬　剛
小倉聯隊區司令部附勤務ヲ命ス　福島縣石川郡長　加藤八次郎
免本職補歩兵第五十一聯隊大隊副官　福島縣事務官補　藤本
免本職補歩兵第六十二聯隊附

（各通）

六級俸下賜　栃木縣立大田原中學校教諭　高瀬　精太
七級俸下賜　福島縣立簾業學校教諭　小島　壽
補若松警察署長（以上八月二十七日内務省）　東京帝國大學法科大學教授正四位勳二等法學博士　梅　謙次郎
東京稅務監督局管内ヘモ出張ヲ命ス（十八月二大藏省）　歩兵第五十七聯隊附陸軍一等軍醫　蟻川　亨
免本職（十八月二陸軍省）　歩兵第五十七聯隊附陸軍一等軍醫　北條　謙吉
免本職補歩兵第六聯隊中隊長　歩兵第六聯隊附陸軍歩兵大尉　深見新之助
免本職補歩兵第十四聯隊中隊長　歩兵第六聯隊中隊長陸軍歩兵大尉　高橋仁兵衛
免本職補歩兵第二聯隊中隊長　歩兵第十四聯隊中隊長陸軍歩兵大尉　廣津　茂雄
免本職補歩兵大隊副官　歩兵第二聯隊中隊長陸軍歩兵大尉　田中丸勝市
免本職補歩兵第七十二聯隊附　歩兵第七十二聯隊附陸軍歩兵中尉　長西　四郎
小倉聯隊區司令部附勤務ヲ命ス　歩兵第十四聯隊附陸軍歩兵中尉　宮副　英
免本職補歩兵第五十一聯隊大隊副官　歩兵第五十一聯隊附陸軍歩兵中尉　廣田文三郎
免本職補歩兵第六十二聯隊附　歩兵第六十二聯隊附陸軍歩兵中尉　水谷友五郎

特旨ヲ以テ位一級被進（八月二同）　從五位子爵　青山　忠允
二級俸下賜　兵庫縣川邊郡長　肥田野五郎
三級俸下賜　兵庫縣川邊郡長　森　重毅
二級俸下賜　兵庫縣多紀郡長　藤井　雅太
五級俸下賜　兵庫縣多紀郡長　安達儀一郎
三級俸下賜　兵庫縣攝保郡長　前川　萬吉
五級俸下賜　兵庫縣氷上郡長　田中　八作
六級俸下賜　兵庫縣多可郡長　新田　喬雄
八級俸下賜　兵庫縣事務官補　兵庫縣警視　小林　波吉
補相生橋警察署長　兵庫縣警部勳八等　小林　波吉
一級俸下賜　福島縣安積郡長　兵庫縣警視　小林　波吉
（各通）　福島縣北會津郡長　兵庫縣相馬郡長　成田　直忠
二級俸下賜　福島縣大沼郡長　福島縣北會津郡長　小松　利忠
四級俸下賜　福島縣石川郡長　福島縣大沼郡長　富田　善吾
三級俸下賜　福島縣事務官補　福島縣石川郡長　加藤八次郎

免本職補歩兵第六十二聯隊大隊副官　歩兵第六十二聯隊附陸軍歩兵中尉　井畔　儀彦
熊谷聯隊區司令部附勤務ヲ免ス　歩兵第六十二聯隊附陸軍歩兵中尉　友野仙之助
熊谷聯隊區司令部附勤務ヲ命ス　歩兵第六十二聯隊附陸軍歩兵中尉　小國　雄一
佐倉聯隊區司令部附勤務ヲ免ス　歩兵第五十七聯隊附陸軍歩兵中尉　赤尾　開治
佐倉聯隊區司令部附勤務ヲ命ス　歩兵第五十七聯隊附陸軍歩兵中尉　荒島　正一
免兼職　歩兵第六十二聯隊附兼臨時陸軍建築部大阪支部部員陸軍歩兵中尉　礒田　臣公
免本職補騎兵第一聯隊中隊長　騎兵第一聯隊附陸軍騎兵大尉　大熊　松彦
免本職補對馬警備歩兵大隊附　歩兵第四十七聯隊附陸軍歩兵少尉　安岡　道助
歩兵第二十二聯隊附陸軍歩兵中尉　倉橋　宗由
野砲兵第十七聯隊附陸軍砲兵中尉　平地彌吉郎

（各通）

休職被仰付　陸軍歩兵少尉　高濱　乙熊
退役被仰付　騎兵第十八聯隊附陸軍一等獸醫　鈴木　龍八
御用有之福島縣下ヘ出張ヲ命ス（以上八月二同）　工業試驗所技師工學博士　三山喜三郎
高山工業試驗所長海外出張中代理ヲ免ス　工業試驗所技師　小寺房治郎
高山工業試驗所長海外出張中代理ヲ命ス　工業試驗所技師　辻本　滿丸
三山工業試驗所第二部長不在中代理ヲ命ス（以上八月二農商務省）　遞信書記官　桑山　鐵男
大阪遞信管理局區内ヘ出張ヲ命ス（八月二遞信省）　通信事務官補　荻野　八郎
新潟郵便局臨時在勤ヲ命ス（八月二同）　統監府警視　玄角　仲藏
統監府警視　青木　戒三

（各通）

一級俸下賜　統監府通譯官　渡邊廉次郎
（各通）　統監府通譯官　古河松之助
二級俸下賜　統監府警務官　中野　有光
（各通）　統監府警視　境　喜明
四級俸下賜（以上七月統監府）

○宮廷錄事

○皇族御饗著　稔彦王殿下ヘ御職務ヲ以テ本月二十六日御出發千葉縣下習志野ヘ御出張相成リ、成久王妃房子内親王殿下竝ニ永久王殿下ハ靜岡縣下修善寺ヘ御旅行ノ處同日御歸京相成リタリ

○彙報

○官廳事項

○獨國大使館外交官補任命　獨逸國第八甲騎兵「グラーフ、ゲスレル」聯隊（ライン）附少尉フォン、ゴルドハンメル（Von Goldhammer）本年十月一日ヨリ向フ一箇年間外交官補トシテ在本邦獨逸國大使館ニ在勤ヲ命セラレタル旨同國臨時代理大使ヨリ本月二十二日附ヲ以テ通知アリ

○在長崎獨逸領事館在勤譯官賜暇歸國　在長崎獨逸領事館在勤譯官ドクトル、シモン來ル九月三十日マテ賜暇歸朝ノ許可ヲ得テ本月四日出發歸國ノ途ニ就キタルカ本年十月一日ヲ以テ退官ノ筈ナル旨同國臨時代理大使ヨリ本月十日附ヲ以テ通知アリ

○官吏發著　鐵道事業研究ノタメ露國ヘ留學ヲ命セラレタル　鐵道院副參事細野正文ハ本月二十五日出發セリ

○獨國大使館外交官補任命　獨逸國第八甲騎兵「グラーフ、ゲスレル」聯隊（ライン）附少尉フォン、ゴルドハンメル（Von Goldhammer）本年十月一日ヨリ向フ一箇年間外交官補トシテ在本邦獨逸國大使館ニ在勤ヲ命セラレタル旨同國臨時代理大使ヨリ本月二十二日附ヲ以テ通知アリ

○在長崎獨逸領事館在勤譯官賜暇歸國　在長崎獨逸領事館在勤譯官ドクトル、シモン來ル九月三十日マテ賜暇歸朝ノ許可ヲ得テ本月四日出發歸國ノ途ニ就キタルカ本年十月一日ヲ以テ退官ノ筈ナル旨同國臨時代理大使ヨリ本月十日附ヲ以テ通知アリ

○官吏發著　鐵道事業研究ノタメ露國ヘ留學ヲ命セラレタル　鐵道院副參事細野正文ハ本月二十五日出發セリ

○埼玉縣下ヘ出張ノ内匠寮技師足立鳩吉ハ本月二十四日「群馬縣下伊香保ヘ出張ノ朝香宮附家令市野喜作ハ同二十六日歸京ス埼玉縣外六縣下水災地（差遣ノ儀從日根野要吉郎ハ一昨二十七日出發セリ

仙臺陸軍地方幼年學校長宮原眞一郎ハ生徒游泳演習ノタメ福島縣原笠ニ向ヒ本月十六日（梅澤近衞歩兵第二旅團長ハ近衞歩兵第三聯隊戰闘射撃及第四期檢閱實視ノタメ千葉縣習志野ニ向ヒ一昨二十七日執モ出發ス）鹽ニ鳥取縣西伯郡大高村ヘ出張ノ波邊歩兵第三十四旅團長ハ本月二十二日歸著セリ

網走監獄典獄大野四郎五郎ハ本月二十三日上京セリ

學術試驗指導ノタメ神奈川縣下ヘ出張ヲ命セラレタル　岸上東京帝國大學農科大學教授ハ本月二十一日出發ス（證ニ和歌山縣下ヘ出張ノ同學助教授湯川又夫ハ同二十三日歸京セリ

○判決

○特許局審決　栢龍藏外一人ヨリ田口仙三郎ニ對スル第六八五九號實用新案無效審判請求事件ニ付キ去月二十七日特許局ニ於テ左ノ如ク審決セリ

審判番號第一八〇一號

審決書

請求人　山口縣佐波郡防府町大字西佐波令字土橋千八百六十一番邸　栢龍藏
同縣同郡同町同大字同字八百六十三番邸　栢　金二郎
被請求人　大阪市東區備後町二丁目十八番邸　特許辨理士　堤　他彦
右兩名代理人　山口縣吉敷郡山口町千九百五十七番地　田口　仙三郎

右當事者間ノ第六八五九號實用新案無效審判請求事件ニ付審決スルコト左ノ如シ

主文

第六八五九號登錄實用新案ハ無效トス

審判費用ハ被請求人ノ負擔トス

申立ノ要領

請求人申立ノ要領ハ第六八五九號登錄實用新案ノ登錄ハ無效トスト審決ヲ相成度其理由ハ被請求人所有ノ第六八五九號登錄實用新案ハ明治四十年八月二十八日附出願ニシテ其構造ハ把手(A)ノ先端ニ多角柱形ヨリ成リ其各面ニ屈曲セル數箇ノ爪ヲ固著シタル除草用掃器(I)ヲルモノヲ架シ其兩側及前方ヲ防護器(K)ニテ圍ヒタルモノナリ然ルニ請求人カ右登錄出願前明治三十四年頃製造販賣スル除草器ハ殆ント右實用新案ト同一ニシテ唯爪ノ屈曲形狀ニ些少ノ差アルノミ其他ノ構造ニ差異アルナシ而シテ爪ノ形狀差異ノ如キハ何等實用上ニ於テ效果ノ異ナルヲ認メス左レハ本件登錄實用新案ハ同法

許可 8157 号

○陸海軍

○退役

○生徒採用募集

○所在不明徴兵終決処分未済者中轉籍セシ者左ノ如シ（官報掲載）

○産業

○役員認可

○不要徴兵終決処分者

○兵役処分済ノ後本籍ニ於テ調査スルヲ要セサル者左ノ如シ（官報掲載）

○所在不明徴兵終決処分未済者中轉籍セシ者左ノ如シ（官報掲載）

○軍艦艤装着手

○海軍予備員

○海軍予備員

○海軍予備員

○在外公館報告

○帝國議會

○貴族院

○男爵議員補闕選舉管理者ヨリ通知ヲ領セリ

○孟買傳染病週報

○香港ペスト週報

○上海ペスト週報

○厦門及附近ペスト週報

○廣東ペスト週報

○新嘉坡虎列刺週報

○檳榔嶼虎列刺週報

○霹靂虎列刺週報

○雪梨傳染病週報

○シドニー傳染病週報

○ブリスベン傳染病週報

○メルボルン傳染病週報

○ホバート傳染病週報

○ウエリントン傳染病週報

○オークランド傳染病週報

○ハワイ虎列刺週報

○桑港虎列刺週報

○ホノルル虎列刺週報

○ヴィクトリア傳染病週報

○バンクーバー傳染病週報

○ニューヨーク傳染病週報

○ボストン傳染病週報

○ニューオルレアン傳染病週報

○ロンドン傳染病週報

○リバプール傳染病週報

○ハンブルグ傳染病週報

○ベルリン傳染病週報

○ブレスラウ傳染病週報

○ケルン傳染病週報

○ハンブルグ虎列刺週報

○ベルリン虎列刺週報

○ブレスラウ虎列刺週報

○ケルン虎列刺週報

○ペテルスブルグ虎列刺週報

○ワルソー虎列刺週報

○ウヰーン虎列刺週報

○ブダペスト虎列刺週報

○ローマ虎列刺週報

○ナポリ虎列刺週報

○ベニス虎列刺週報

○ミラノ虎列刺週報

○ジェノア虎列刺週報

○パレルモ虎列刺週報

○マルセイユ虎列刺週報

○パリ虎列刺週報

○ボルドー虎列刺週報

○リヨン虎列刺週報

○ルアーブル虎列刺週報

○アントワープ虎列刺週報

○ロッテルダム虎列刺週報

○アムステルダム虎列刺週報

○ブラッセル虎列刺週報

○ジブラルタル虎列刺週報

○マドリード虎列刺週報

○バルセロナ虎列刺週報

○リスボン虎列刺週報

○ポルト虎列刺週報

○ジェノア虎列刺週報

○ベニス虎列刺週報

○ナポリ虎列刺週報

○ローマ虎列刺週報

○ブダペスト虎列刺週報

○ウヰーン虎列刺週報

○ワルソー虎列刺週報

○ペテルスブルグ虎列刺週報

○ケルン虎列刺週報

○ベルリン虎列刺週報

○ハンブルグ虎列刺週報

○ブレスラウ

○東京氣象表

| | | |

○商業登記

在清國上海帝國總領事館

右明治四十三年八月十九日登記

一　支店居住者ノ氏名　國籍　住所

一　資本總額

一　一株金額

一　一株ニ付拂込ミタル金額

一　株券ノ種類及數

一　株券ノ名義書換ニ關スル規定

一　取締役ノ氏名　國籍　住所

一　取締役ノ代表權ヲ有スル者ノ氏名　國籍　住所

一　取締役ノ代表權ニ制限アルトキハ其制限ノ定メアル事項

一　監査役ノ氏名　國籍　住所

一　公告ノ方法

一　營業ノ目的

一　營業所ノ名稱及所在場所

一　存立時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其時期又ハ事由

一　支店ノ名稱及所在場所

一　資本總額

一　一株金額

一　一株ニ付拂込ミタル金額

一　株券ノ種類及數

一　株券ノ名義書換ニ關スル規定

一　取締役ノ氏名　國籍　住所

一　取締役ノ代表權ヲ有スル者ノ氏名　國籍　住所

一　取締役ノ代表權ニ制限アルトキハ其制限ノ定メアル事項

一　監査役ノ氏名　國籍　住所

一　公告ノ方法

一　營業ノ目的

一　營業所ノ名稱及所在場所

一　存立時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其時期又ハ事由

一　支店ノ名稱及所在場所

一　資本總額

一　一株金額

一　一株ニ付拂込ミタル金額

一　株券ノ種類及數

一　株券ノ名義書換ニ關スル規定

一　取締役ノ氏名　國籍　住所

一　取締役ノ代表權ヲ有スル者ノ氏名　國籍　住所

一　取締役ノ代表權ニ制限アルトキハ其制限ノ定メアル事項

一　監査役ノ氏名　國籍　住所

一　公告ノ方法

一　營業ノ目的

一　營業所ノ名稱及所在場所

右明治四十三年八月十九日登記

在清國天津帝國總領事館

右明治四十三年八月十九日登記

在清國上海帝國總領事館

第 8157 号　本文

第 8115 7 号　本文

物価号外

官報　號外　明治四十三年八月二十九日　月曜日　印刷局

○條約

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經タル韓國併合ニ關スル條約ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治四十三年八月二十九日

内閣總理大臣　侯爵桂　太郎
外務大臣　伯爵小村壽太郎

條約第四號

日本國皇帝陛下及韓國皇帝陛下ハ兩國間ノ特殊ニシテ親密ナル關係ヲ顧ヒ相互ノ幸福ヲ增進シ東洋ノ平和ヲ永久ニ確保セムコトヲ欲シ此ノ目的ヲ達セムカ爲ニハ韓國ヲ日本帝國ニ併合スルニ如カサルコトヲ確信シ茲ニ兩國間ニ併合條約ヲ締結スルコトニ決シ之カ爲日本國皇帝陛下ハ統監子爵寺内正毅ヲ韓國皇帝陛下ハ内閣總理大臣李完用ヲ各其ノ全權委員ニ任命セリ因テ右全權委員ハ會同協議ノ上左ノ諸條ヲ協定セリ

第一條　韓國皇帝陛下ハ韓國全部ニ關スル一切ノ統治權ヲ完全且永久ニ日本國皇帝陛下ニ讓與ス

第二條　日本國皇帝陛下ハ前條ニ揭ケタル讓與ヲ受諾シ且全然韓國ヲ日本帝國ニ併合スルコトヲ承諾ス

第三條　日本國皇帝陛下ハ韓國皇帝陛下、太皇帝陛下、皇太子殿下竝其ノ后妃及後裔ヲシテ各其ノ地位ニ應シ相當ナル尊稱、威嚴及名譽ヲ享有セシメ且之ヲ保持スルニ十分ナル歲費ヲ供給スヘキコトヲ約ス

第四條　日本國皇帝陛下ハ前條以外ノ韓國皇族及其ノ後裔ニ對シ各相當ノ名譽及待遇ヲ享有セシメ且之ヲ維持スルニ必要ナル資金ヲ供與スルコトヲ約ス

第五條　日本國皇帝陛下ハ勳功アル韓人ニシテ特ニ表彰ヲ爲スヲ適當ナリト認メタル者ニ對シ榮爵ヲ授ケ且恩金ヲ與フヘシ

第六條　日本國政府ハ前記併合ノ結果トシテ全然韓國ノ施政ヲ擔任シ同地ニ施行スル法規ヲ遵守スル韓人ノ身體及財產ニ對シ十分ナル保護ヲ與ヘ且其ノ福利ノ增進ヲ圖ルヘシ

第七條　日本國政府ハ誠意忠實ニ新制度ヲ尊重スル韓人ニシテ相當ノ資格アル者ヲ事情ノ許ス限リ韓國ニ於ケル帝國官吏ニ登用スヘシ

第八條　本條約ハ日本國皇帝陛下及韓國皇帝陛下ノ裁可ヲ經タルモノニシテ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

右證據トシテ兩全權委員ハ本條約ニ記名調印スルモノナリ

明治四十三年八月二十二日

統監子爵寺内正毅

隆熙四年八月二十二日

内閣總理大臣　李完用

○彙報

○官廳事項

○韓國併合ニ關スル宣言　韓國併合ノ件ニ關シ帝國政府ハ韓國トノ間ニ條約ヲ有シ又ハ韓國ニ於テ最惠國待遇ヲ享クヘキコトナリ居リタル獨逸國、亞米利加合衆國、墨地利洪牙利國、白耳義國、清國、丁抹國、佛蘭西國、大不列顚國、伊太利國及露西亞國ノ各政府ニ對シ左ノ宣言ヲ爲シタリ

明治三十八年日韓協約成リテヨリ茲ニ四年有餘其ノ間日韓兩國政府ハ鋭意

許可 8115号 物価局

韓國施政ノ改善ニ從事シタリト雖同國現在ノ統治制度ハ尚未タ十分ニ公共ノ安寧秩序ヲ保持スルニ足ラス衆民疑懼ノ念ヲ懷キ適歸スル所ヲ知ラサル狀アリ韓國ノ靜謐ヲ維持シ併セテ韓國ニ於ケル外國人ノ安寧ヲ計ルカ爲ニハ此ノ際現制度ニ對シ根本的ノ改善ヲ加フルノ必要アルコト瞭然タルニ至レリ

日韓兩國政府ハ前記ノ必要ニ應シテ現在ノ事態ヲ改良シ且將來ノ安固ニ對シテ完全ナル保障ヲ與フルノ急務ナルヲ認メ日本國皇帝陛下及韓國皇帝陛下ノ承認ヲ經兩國全權委員ヲシテ一ノ條約ヲ締結セシメ全然韓國ヲ日本帝國ニ併合スルコトトナセリ

該條約ハ八月二十九日ヲ以テ之ヲ公布シ同日ヨリ直ニ之ヲ施行スヘク日本帝國政府ハ同條約ノ結果朝鮮ニ關スル統治ノ全部ヲ擔當スルコトトナレルヲ以テ茲ニ左ノ方針ニ依リ外國人及外國貿易ニ關スル事項ヲ處理スヘキコトヲ表明ス

一韓國ト列國トノ條約ハ當然無效ニ歸シ日本國ト列國トノ現行條約ハ其ノ適用ヲ得ル限朝鮮ニ適用セラルヘシ

朝鮮ニ在留スル諸外國人ハ日本法權ノ下ニ於テ事情ノ許ス限日本內地ニ於ケルト同一ノ權利及特典ヲ享有シ且其ノ適法ナル既得權ノ保護ヲ受クヘシ

日本帝國政府ハ併合條約施行ノ際現ニ朝鮮ニ於ケル外國領事裁判所ニ屬屬スル事件ハ最終ノ決定ニ至迄其ノ裁判ヲ續行セシムルコトヲ承諾スヘシ

二日本帝國政府ハ從來ノ條約ニ關係アク今後十年間朝鮮ヨリ外國ニ輸出シ又ハ外國ヨリ朝鮮ニ輸入スル貨物及朝鮮開港ニ入ル外國船舶ニ對シ現在ト同率ノ輸出入稅及噸稅ヲ課スヘシ

朝鮮ヨリ日本ニ移出シ又ハ日本ヨリ朝鮮ニ移入スル貨物及朝鮮開港ニ入ル日本船舶モ亦今後十年間前項ノ貨物及船舶ニ對スルト同率ノ課稅ヲ受クルモノトス

三日本帝國政府ハ今後十年間日本國トノ條約國ノ船舶ニ對シ朝鮮開港間及朝鮮開港ト日本開港間ノ沿岸貿易ニ從事スルヲ許スヘシ

四從來ノ開港場ハ馬山浦ヲ除クノ外尙ニ依リ之ヲ開港トナシ更ニ新義州ヲモ開港トシ內外船舶ノ出入及之ニ依ル貨物ノ輸出入ヲ許スヘシ

帝國政府ハ又亞爾然丁國伯剌西爾國智利國祕倫比亞國西班牙國希臘國墨西哥國諸威國和蘭國祕露國葡萄牙國暹羅國瑞典國及瑞西國ノ各政府ニ對シ左ノ宣言ヲ爲シタリ

明治四十三年八月二十二日日本國ト韓國トノ間ニ締結セラレタル條約ニ依リ韓國ハ日本國ニ併合セラレ本日ヨリ日本帝國ノ一部ヲ成スコトトナレリ爾今日本國ト列國トノ現行條約ハ其ノ適用シ得ル限朝鮮ニ適用セラルヘク該現行條約ヲ有スル列國ノ臣民又ハ人民ハ朝鮮ニ於テ事情ノ許ス限日本內地ニ於ケルト同一ノ權利及特典ヲ享有スヘシ

○詔書

朕東洋ノ平和ヲ永遠ニ維持シ帝國ノ安全ヲ將來ニ保障スルノ必要ナルヲ念ヒ又常ニ韓國カ禍亂ノ淵源タルニ顧ミ曩ニ朕ノ政府ヲシテ韓國政府ト協定セシメ韓國ヲ帝國ノ保護ノ下ニ置キ以テ禍源ヲ杜絕シ平和ヲ確保セムコトヲ期セリ

爾來時ヲ經ルコト四年有餘其ノ間朕ノ政府ハ銳意韓國施政ノ改善ニ努メ其ノ成績亦見ルヘキモノアリト雖韓國ノ現制ハ尙未タ治安ノ保持ヲ完スルニ足ラス疑懼ノ念每ニ國內ニ充溢シ民其ノ堵ニ安セス公共ノ安寧ヲ維持シ民衆ノ福利ヲ增進セムカ爲ニハ革新ヲ現制ニ加フルノ避ク可ラサルコト瞭然タルニ至レリ

朕ハ韓國皇帝陛下ト與ニ此ノ事態ニ鑑ミ韓國ヲ擧テ日本帝國ニ併合シ以テ時勢ノ要求ニ應スルノ已ムヲ得サルモノアルヲ念ヒ茲ニ永久ニ韓國ヲ帝國ニ併合スルコトトナセリ

韓國皇帝陛下及其ノ皇室各員ハ併合ノ後ト雖相當ノ優遇ヲ受クヘク民衆ハ直接朕カ綏撫ノ下ニ立チテ其ノ康福ヲ增進スヘク產業及貿易ハ治平ノ下ニ顯著ナル發達ヲ見ルニ至ルヘシ而シテ東洋ノ平和ハ之ニ依リテ愈〻其ノ基礎ヲ鞏固ニスヘキハ朕ノ信シテ疑ハサル所ナリ

朕ハ特ニ朝鮮總督ヲ置キ之ヲシテ朕ノ命ヲ承ケテ陸海軍ヲ統率シ諸般ノ政務ヲ總轄セシム百官有司克ク朕ノ意ヲ體シテ事ニ從ヒ施設ノ緩急其ノ宜キヲ得以テ衆庶ヲシテ永ク治平ノ慶ニ賴ラシムルコトヲ期セヨ

御名御璽

明治四十三年八月二十九日

內閣總理大臣兼大藏大臣　侯爵桂　太郎
陸軍大臣　子爵寺內正毅
外務大臣　伯爵小村壽太郎
海軍大臣　男爵齋藤　實
內務大臣　法學博士男爵平田東助
遞信大臣　男爵後藤新平
文部大臣兼農商務大臣　小松原英太郎
司法大臣　子爵岡部長職

朕天壤無窮ノ丕基ヲ弘クシ國家非常ノ禮數ヲ備ヘムト欲シ前韓國皇帝ヲ冊シテ王ト爲シ昌德宮李王ト稱シ嗣後此ノ隆錫ヲ世襲シテ以テ其ノ宗祀ヲ奉セシメ皇太子及將來ノ世嗣ヲ王世子トシ太皇帝ヲ太王ト爲シ德壽宮李太王ト稱シ各其ノ儷匹ヲ王妃太王妃又ハ王世子妃トシ竝ニ待ツニ皇族ノ禮ヲ以テシ特ニ殿下ノ敬稱ヲ用并シム世家率循ノ道ニ至リテハ朕ハ當ニ別ニ其ノ軌儀ヲ定メ李家ノ子孫ヲシテ奕葉之ニ賴リ福履ヲ增綏シ永ク休祉ヲ享ケシムヘシ茲ニ有衆ニ宣示シ用テ殊典ヲ昭ニス

許可 8157 号

御名御璽

明治四十三年八月二十九日

宮内大臣　子爵渡邊千秋

内閣總理大臣　侯爵桂　太郎

朕惟フニ李堈及李熹ハ李王ノ懿親ニシテ令聞夙ニ彰ハレ櫨域ノ瞻望タリ宜ク殊遇ヲ加錫シ其ノ儀稱ヲ豐ニスヘシ茲ニ特ニ公ト爲シ其ノ配匹ヲ公妃トシ竝ニ待ツニ皇族ノ禮ヲ以テシ殿下ノ敬稱ヲ用并シメ子孫ヲシテ此ノ榮錫ヲ世襲シ永ク寵光ヲ享ケシム

御名御璽

明治四十三年八月二十九日

宮内大臣　子爵渡邊千秋

内閣總理大臣　侯爵桂　太郎

朕惟フニ統治ノ大權ニ由リ茲ニ始テ治化ヲ朝鮮ニ施クハ朕カ蒼黎ヲ綏撫シ赤子ヲ體邺スルノ意ヲ昭示スルヨリ先ナルハナシ乃別ニ定ムル所ニ依リ朝鮮ニ於ケル舊刑所犯ノ罪囚中情狀ノ憫諒スヘキ者ニ對シテ特ニ大赦ヲ行ヒ積年ノ逋租及今年ノ租稅ハ之ヲ減免シ以テ朕カ軫念スル所ヲ知悉セシム

御名御璽

明治四十三年八月二十九日

宮内大臣　子爵渡邊千秋

内閣總理大臣　侯爵桂　太郎

朕惟フニ李家ノ懿親及其ノ邦家ニ大勞アリタル者ハ宜ク之ヲ優列ニ陞シ敍シテ朝鮮貴族ト爲シ用テ寵光ヲ示スヘシ茲ニ其ノ舊德前功ヲ秩シ世爵ノ典ヲ定メテ朝鮮貴族令トシ之ヲ裁可シ公布セシム

○皇室令

御名御璽

明治四十三年八月二十九日

宮内大臣　子爵渡邊千秋

内閣總理大臣兼大藏大臣　侯爵桂　太郎

陸軍大臣　子爵寺内正毅

外務大臣　伯爵小村壽太郎

海軍大臣　男爵齋藤　實

内務大臣　法學博士男爵平田東助

遞信大臣　男爵後藤新平

文部大臣兼農商務大臣　小松原英太郎

司法大臣　子爵岡部長職

皇室令第十四號

朝鮮貴族令

第一條　本令ニ依リ爵ヲ授ケラレ又ハ爵ヲ襲キタル者ヲ朝鮮貴族トス

有爵者ノ婦ハ朝鮮貴族ノ族稱ヲ享ク

第二條　爵ハ李王ノ現在ノ血族ニシテ皇族ノ禮遇ヲ享ケサル者及門地又ハ功勞アリタル朝鮮人ニ之ヲ授ク

第三條　爵ハ公侯伯子男ノ五等トス

第四條　爵ヲ授クルハ勅旨ヲ以テシ宮内大臣之ヲ奉行ス

第五條　有爵者ハ其ノ爵ニ應シ華族令ニ依ル有爵者ト同一ノ禮遇ヲ享ク

第六條　有爵者ノ婦ハ其ノ夫ノ爵ニ相當スル禮遇及名稱ヲ享ク

有爵者ノ寡婦其ノ家ニ在ルトキハ特ニ貴族ノ族稱ヲ保有セシメ從前ノ禮遇及名稱ヲ享ケシム

第七條　有爵者ノ家族ニシテ左ニ揭ケタル者ハ華族ト同一ノ禮遇及貴族ノ族稱ヲ享ク

一　曾祖父、祖父、父

二　爵ヲ襲クコトヲ得ヘキ相續人及其ノ嫡長男子、嫡出ノ男子ナキトキハ其ノ庶長男子

三　前二號ニ揭ケタル者ノ配偶者

第八條　有爵者又ハ前二條ノ禮遇ヲ享クヘキ者身體若ハ精神ニ重患アリ又ハ貴族ノ體面ニ關スル事故アルトキハ其ノ重患又ハ事故ノ止ムマテ其ノ禮遇ヲ享クルコトヲ得ス

前項ノ重患又ハ事故ノ有無ハ宮内高等官中ヨリ勅命シタル審査委員ヲシテ審査セシメタル後宮内大臣ノ上奏ニ依リ之ヲ勅裁ス

第九條　有爵者ハ家範ヲ定ムルコトヲ得

家範ハ宮内大臣ノ認許ヲ受クヘシ之ヲ廢止變更スルトキ亦同シ

有爵者二十年未滿ナルトキ又ハ前條ノ場合ニ該當スル者ナルトキハ家範ヲ定メ又ハ之ヲ廢止變更スルコトヲ得ス

第十條　爵ハ家ノ相續人タル男子ヲシテ之ヲ襲カシム

第十一條　爵ヲ襲クコトヲ得ヘキ相續人ハ相續開始ノ時ヨリ六箇月内ニ宮内大臣ニ相續ノ届出ヲ爲スヘシ

前項ノ届出アリタルトキハ宮内大臣ハ勅許ヲ經テ襲爵ノ辭令書ヲ交付ス

第十二條　襲爵ハ相續開始ノ時ヨリ其ノ效力ヲ生ス

第十三條　左ノ場合ニ於テハ相續人ハ襲爵ノ特權ヲ失フ

一　第十一條第一項ノ期間内ニ相續ノ届出ヲ爲ササルトキ

二　第十六條第二項又ハ第十八條ノ規定ニ依リ貴族ノ族稱ヲ除カレタルトキ

第十四條　相續人忠順ヲ缺クノ行爲アリタルトキハ襲爵ヲ勅許セラルルコトナシ

第八條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十五條　有爵者及第六條又ハ第七條ノ禮遇ヲ享クヘキ者ノ身分ニ關シ監督上必要ノ事項ハ宮内大臣之ヲ管掌ス

第十六條　有爵者國籍ヲ喪失シタルトキ又ハ禁錮者ハ禁獄以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケ其ノ裁判確定シタルトキハ其ノ爵ヲ失フ

第六條又ハ第七條ノ禮遇ヲ享クヘキ者前項ノ場合ニ該當スルトキハ貴族ノ族稱ヲ除キ又ハ禮遇ヲ享クヘキ者前項ノ場合ニ該當スルトキハ貴族ノ族稱ヲ除キ又ハ禮遇ヲ停止スル

第十七條　有爵者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ爵ヲ返上セシメ又ハ禮遇ヲ停止若ハ禁止ス

一　貴族ノ體面ヲ汚辱スル失行アル者

二　貴族ノ品位ヲ保ツコト能ハサル者

三　忠順ヲ缺クノ行爲アル者

四　宮内大臣ノ命令又ハ家範ニ違反シ情狀重キ者

第十八條　第六條又ハ第七條ノ禮遇ヲ享クヘキ者前條ノ場合ニ該當スルトキハ貴族ノ族稱ヲ除キ又ハ禮遇ヲ停止若ハ禁止ス

第十九條　有爵者禮遇ノ停止又ハ禁止中ニ在ルトキハ第六條第一項及第七條ノ禮遇ヲ享クヘキ者モ共ニ其ノ禮遇ヲ享クルコトヲ得ス

第二十條　有爵者其ノ品位ヲ保ツコト能ハサルトキハ宮内大臣ヲ經テ爵ノ返上ヲ請願スルコトヲ得

第二十一條　第十六條第二項、第十七條及第十八條ノ處分ハ勅裁ヲ經テ宮内大臣之ヲ行フ禮遇ノ停止ヲ解除スルトキ亦同シ

第八條第二項ノ規定ハ前項ノ處分及解除ニ之ヲ準用ス

禮遇ノ禁止ヲ解除スルハ特旨ニ由ル

第二十二條　審査委員ニ關スル規程ハ宮内大臣勅裁ヲ經テ之ヲ定ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕朝鮮ニ在住スル貴族ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

許可 8157 号

明治四十三年八月二十九日

宮内大臣　子爵渡邊千秋

内閣總理大臣　侯爵桂　太郎

皇室令第十五號

第一條　朝鮮貴族令第八條、第十四條及第二十一條ノ場合ニ於テハ朝鮮ニ在住スル貴族ニ限リ當分ノ内朝鮮總督ニ於テ審査委員ヲシテ審査セシメタル後之ヲ宮内大臣ニ移牒スヘシ

前項ノ審査委員ハ朝鮮總督府高等官ノ内ヨリ朝鮮總督之ヲ命ス

審査委員ニ關スル規程ハ朝鮮總督宮内大臣ニ協議シテ之ヲ定ム

第二條　朝鮮貴族令第九條第二項、第十一條第一項及第二十條ノ規定ニ依リ屆出、認許ノ申請又ハ請願ヲ爲スニハ朝鮮ニ在住スル貴族ニ限リ當分ノ内朝鮮總督ヲ經由スヘシ

第三條　朝鮮貴族令第十五條ノ規定ニ依リ朝鮮ニ在住スル貴族ノ監督上必要ノ事項ハ當分ノ内朝鮮總督之ヲ管掌ス但シ主要ノ事項ニ付テハ宮内大臣ニ協議スヘシ

第四條　朝鮮ニ在住スル貴族朝鮮總督ノ命令ニ違反シ情狀重キトキハ朝鮮貴族令第十七條ヲ適用ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕朝鮮貴族ノ敍位ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治四十三年八月二十九日

宮内大臣　子爵渡邊千秋

内閣總理大臣　侯爵桂　太郎

皇室令第十六號

敍位條例ハ朝鮮貴族ノ敍位ニ關シ之ヲ準用ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕華族令中改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治四十三年八月二十九日

宮内大臣　子爵渡邊千秋

内閣總理大臣　侯爵桂　太郎

内務大臣　法學博士男爵平田東助

皇室令第十七號

華族令中左ノ通改正ス

第二十七條第二項中「有爵者ノ互選ニ依リ組織シタル懲戒委員會ノ決議」ヲ「宗秩寮審議會ノ審議」ニ改ム

第二十八條　削除

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕宮内省官制中改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治四十三年八月二十九日

宮内大臣　子爵渡邊千秋

内閣總理大臣　侯爵桂　太郎

皇室令第十八號

宮内省官制中左ノ通改正ス

第二條中華族ノ下ニ「及朝鮮貴族」ヲ加フ

第九條中「宮内職員及華族」ヲ「宮内職員、華族及朝鮮貴族」ニ改ム

第十四條第二項中第五號削除

第二十條中「二百四十三人」ヲ「二百五十人」ニ改ム

第二十二條中「式部職」ノ次ニ「宗秩寮」ヲ加ヘ「爵位寮」ヲ削ル

第三十六條ノ二　宗秩寮ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　皇族ニ關スル事項

二　王族及公族ニ關スル事項

三　爵位ニ關スル事項

四　華族ニ關スル事項

五　朝鮮貴族ニ關スル事項

六　有位者ニ關スル事項

第三十六條ノ三　宗秩寮ニ左ノ職員ヲ置ク

宗秩寮總裁

宗秩寮主事

第三十六條ノ四　宗秩寮總裁ハ親任又ハ勅任トス宗秩寮ヲ統轄シ兼テ皇族、王族及公族ニ附屬スル職員ヲ監督ス

第三十六條ノ五　宗秩寮主事ハ二人奏任トス内一人ヲ勅任トス爲スコトヲ得寮務ヲ分掌ス

第三十六條ノ六　宗秩寮ニ審議會ヲ置ク

審議會ハ皇族、王族及公族ニ關スル重要ノ事項ニ付キ諮詢ニ應シ意見ヲ上奏ス

審議會ハ華族ノ懲戒及禮遇停止ノ解除ヲ審議シ兼テ華族及朝鮮貴族ニ關スル重要ノ事項ニ付キ宮内大臣ノ諮問ニ應ス

第三十六條ノ七　審議會ハ宗秩寮總裁及宗秩寮審議官ヲ以テ之ヲ組織ス

第三十六條ノ八　宗秩寮審議官ハ左ニ掲クル者ニ就キ宮内大臣ノ奏請ニ依リ之ヲ勅命ス

一　樞密顧問官　三人

二　宮内勅任官　四人

三　有爵者　五人（公侯伯子各一人）

宗秩寮審議官ハ官吏ヨリ命セラレタル者ハ勅任官ノ待遇ヲ享ケ有爵者ヨリ命セラレタル者ハ勅任官ノ待遇ヲ享ク

第三十六條ノ九　審議會ノ議長ハ宗秩寮總裁及宗秩寮審議官ノ内上席者ヲ以テ之ニ充ツ

議長事故アルトキハ次席者之ヲ代理ス

第三十六條ノ十　審議會ハ審議官過半數ノ出席アルニ非サレハ之ヲ開クコトヲ得ス

第三十八條第五號中「天皇及皇族」ヲ「天皇、皇族、王族及公族」ニ改ム

第三十九條　削除

第四十九條中「各寮」ヲ「宗秩寮ヲ除クノ外各寮」ニ改ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕宮内官等俸給令中改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治四十三年八月二十九日

宮内大臣　子爵渡邊千秋

皇室令第十九號

宮内官等俸給令中左ノ通改正ス

宮内高等官官等表中「樂長」ノ次親任及一等ノ欄ニ「宗秩寮總裁」ヲ二等乃至七等ノ欄ニ「宗秩寮主事」ヲ加ヘ「爵位頭」及「爵位寮主事」ヲ削ル

宮内高等官俸給表第一號表中「式部長官」ノ下ニ「宗秩寮總裁」ヲ加フ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕前韓國宮内府職員ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

特定 8157 号

明治四十三年八月二十九日

宮内大臣　子爵渡邊千秋

内閣總理大臣　侯爵桂　太郎

皇室令第二十號

前韓國宮内府職員ニシテ朝鮮總督ニ於テ褒務取扱ヲ命シタル者ハ當分ノ内從前ノ官職ノ區別ニ從ヒ王族及公族ニ關スル事務ヲ掌理ス

朝鮮在住ノ王族及公族ニ附屬スル前項ノ職員ハ朝鮮總督之ヲ監督ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○勅令

朕韓國ノ國號ヲ改メ朝鮮ト稱スルノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治四十三年八月二十九日

内閣總理大臣　侯爵桂太郎

勅令第三百十八號

韓國ノ國號ハ之ヲ改メ爾今朝鮮ト稱ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ朝鮮總督府設置ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治四十三年八月二十九日

内閣總理大臣兼大藏大臣　侯爵桂太郎

勅令第三百十九號

朝鮮ニ朝鮮總督府ヲ置ク

朝鮮總督府ニ朝鮮總督ヲ置キ委任ノ範圍内ニ於テ陸海軍ヲ統率シ一切ノ政務ヲ統轄セシム

統監府及其ノ所屬官署ハ當分ノ内之ヲ存置シ朝鮮總督ノ職務ハ統監ヲシテ之ヲ行ハシム

從來韓國政府ニ屬シタル官廳ハ内閣及裁勘院ヲ除クノ外朝鮮總督府所屬官署ト看做シ當分ノ内之ヲ存置ス

前項ノ官署ニ在勤スル官吏ニ關シテハ舊韓國政府ニ在勤中ト同一ノ取扱ヲ爲ス但シ舊韓國法規ニ依ル親任官ハ親任官ノ待遇、勅任官ハ勅任官ノ待遇、奏任官ハ奏任官ノ待遇、判任官ハ判任官ノ待遇ヲ受クルモノトシ尚在官ノ儘聘用ヲ許可セラレタル者ニ在リテハ明治三十七年勅令第百九十五號ノ適用ヲ受クルモノト看做ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕稅關官制中改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治四十三年八月二十九日

内閣總理大臣兼大藏大臣　侯爵桂太郎

勅令第三百二十號

稅關官制中左ノ通改正ス

第一條第七號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

八　移入稅ニ關スル事項

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕統監府特許局官制廢止ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治四十三年八月二十九日

内閣總理大臣　侯爵桂太郎

勅令第三百二十一號

統監府特許局官制ハ之ヲ廢止ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕舊韓國在外指定學校職員ノ名稱待遇及任用解職ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治四十三年八月二十九日

内閣總理大臣　侯爵桂太郎

勅令第三百二十二號

舊韓國ニ於テ在外指定學校職員退隱料及遺族扶助料法ニ依リ指定セラレタル學校ノ職員ノ名稱待遇及任用解職ニ關シテハ當分ノ内明治三十八年勅令第二百三十號ヲ準用ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕舊韓國軍人ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治四十三年八月二十九日

内閣總理大臣兼大藏大臣　侯爵桂　太郎

陸軍大臣　子爵寺内正毅

外務大臣　伯爵小村壽太郎

海軍大臣　男爵齋藤　實

内務大臣　男爵後藤新平

遞信大臣　男爵後藤新平

文部大臣兼農商務大臣　小松原英太郎

司法大臣　子爵岡部長職

朕舊韓國軍人ニ關スル件ニ依リ朝鮮ニ施行スヘキ法令ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治四十三年八月二十九日

内閣總理大臣兼大藏大臣　侯爵桂　太郎

陸軍大臣　子爵寺内正毅

外務大臣　伯爵小村壽太郎

海軍大臣　男爵齋藤　實

内務大臣　法學博士男爵平田東助

遞信大臣　男爵後藤新平

文部大臣兼農商務大臣　小松原英太郎

司法大臣　子爵岡部長職

8115

勅令第三百二十四號

第一條　朝鮮ニ於テハ法律ヲ要スル事項ハ朝鮮總督ノ命令ヲ以テ之ヲ規定スルコトヲ得

第二條　前條ノ命令ハ內閣總理大臣ヲ經テ勅裁ヲ請フヘシ

第三條　臨時緊急ヲ要スル場合ニ於テ朝鮮總督ハ直ニ第一條ノ命令ヲ發スルコトヲ得

前項ノ命令ハ發布後直ニ勅裁ヲ請フヘシ若勅裁ヲ得サルトキハ朝鮮總督ハ直ニ其ノ命令ノ將來ニ向テ效力ナキコトヲ公布スヘシ

第四條　法律ノ全部又ハ一部ヲ朝鮮ニ施行スルヲ要スルモノハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條　第一條ノ命令ハ第四條ニ依リ朝鮮ニ施行シタル法律及特ニ朝鮮ニ施行スル目的ヲ以テ制定シタル法律及勅令ニ違背スルコトヲ得ス

第六條　第一條ノ命令ハ制令ト稱ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕茲ニ朝鮮ヲ統治スルノ始ニ方リ惠澤ヲ施サムカ爲左ノ條項ニ依リ特ニ大赦ヲ行ハシム

御名御璽

明治四十三年八月二十九日

內閣總理大臣兼大藏大臣　侯爵　桂　太郎
陸軍大臣　子爵　寺內正毅
外務大臣　伯爵　小村壽太郎
海軍大臣　男爵　齋藤　實
內務大臣　男爵（法學博士男爵）　平田東助
遞信大臣　男爵　後藤新平
文部大臣兼農商務大臣　小松原英太郎
司法大臣　子爵　岡部長職

第一條　本令公布前ニ於テ左ニ記載シタル韓國法令ノ罪ヲ犯シタル者ハ之ヲ赦免ス

一　刑法大全第百九十一條ノ罪、同罪ニ關スル第百九十二條及第百九十三條ノ罪竝第百九十四條ノ罪

二　刑法大全第百九十五條ノ罪及同條ニ該當スル犯人ノ情ヲ知リテ藏匿シ又ハ隱祕セシメタル罪

三　刑法大全第百九十六條乃至第百九十九條ノ罪

四　刑法大全第二百一條ノ罪

五　刑法大全第二百二條乃至第二百五十二條ノ罪

六　刑法大全第二百五十三條乃至第二百五十六條ノ罪

七　刑法大全第二百六十條ノ罪

八　刑法大全第二百六十二條及第二百六十四條ノ罪

九　刑法大全第二百六十五條ノ罪

十　刑法大全第二百六十六條ノ罪

十一　刑法大全第二百七十五條及第二百八十條ノ罪但シ人ヲ殺シタル罪ヲ除ク

十二　刑法大全第二百八十九條及第二百九十二條ノ罪

十三　刑法大全第二百九十三條第二百九十四條及第二百九十六條ノ罪

十四　刑法大全第三百三條及第三百四條ノ罪但シ第三百四條但書ノ罪ヲ除ク

十五　刑法大全第三百六條ノ罪

十六　刑法大全第三百十二條ノ罪

十七　刑法大全第三百十八條ノ罪

十八　刑法大全第三百二十條乃至第三百二十七條ノ罪但シ第三百二十二條但書及第三百二十四條乃至第三百三十七條ノ罪但シ死ニ致シタル罪ヲ除ク

十九　刑法大全第三百四十六條ノ罪

二十　刑法大全第三百五十三條乃至第三百六十一條ノ罪但シ因リテ所犯アリタル者ニシテ其ノ所犯本令ニ依リ赦免スヘカラサル罪ニ該當スルトキハ之ヲ除ク

二十一　刑法大全第三百六十七條乃至第三百七十條ノ罪

二十二　刑法大全第三百八十一條、第三百八十三條及第三百八十六條ノ罪

二十三　刑法大全第四百條乃至第四百三條ノ罪

二十四　刑法大全第四百四條乃至第四百七條ノ罪

二十五　刑法大全第四百八條及第四百九條ノ罪

二十六　刑法大全第四百十三條乃至第四百十六條ノ罪

二十七　刑法大全第四百二十八條乃至第四百三十條ノ罪

二十九　刑法大全第四百二十九條乃至第四百三十二條及第四百三十四條乃至第四百三十六條ノ罪

三十　刑法大全第四百三十七條ノ罪

三十一　刑法大全第四百三十九條乃至第四百四十二條ノ罪但シ因リテ所犯アリタル者ニシテ其ノ所犯本令ニ依リ赦免スヘカラサル罪ニ該當スルトキハ之ヲ除ク

三十二　刑法大全第四百四十八條乃至第四百五十四條、第四百五十六條及第四百五十七條ノ罪但シ人ヲ殺シタル罪ヲ除ク

三十三　刑法大全第四百五十八條乃至第四百六十條、第四百六十三條及第四百六十四條ノ罪

三十四　刑法大全第四百六十六條、第四百六十七條及第四百六十九條乃至第四百七十二條ノ罪

三十五　刑法大全第四百八十三條ノ罪

三十六　刑法大全第四百八十四條ノ罪

三十七　刑法大全第四百九十三條ノ罪

三十八　刑法大全第四百九十五條及第四百九十六條ノ罪

三十九　刑法大全第四百九十八條第二號及第四百九十九條第六號乃至第八號ノ罪

四十　刑法大全第五百十一條及第五百十五條ノ罪

四十一　刑法大全第五百二十條及第五百二十一條ノ罪

四十二　刑法大全第五百三十條乃至第五百三十二條ノ罪

四十三　刑法大全第五百三十三條ノ罪

四十四　刑法大全第五百三十四條及第五百四十條ノ罪

四十五　刑法大全第五百四十三條ノ罪

四十六　刑法大全第五百四十五條及第五百五十八條ノ罪

四十七　刑法大全第五百五十九條乃至第五百七十六條ノ罪

四十八　刑法大全第五百七十九條及第六百二十三條ノ罪

四十九　刑法大全第六百三十一條乃至第六百三十五條ノ罪

五十　刑法大全第六百四十四條乃至第六百四十六條ノ罪

五十一　刑法大全第六百四十九條乃至第六百五十六條ノ罪

五十二　刑法大全第六百六十條乃至第六百六十三條ノ罪

五十三　刑法大全第六百六十七條及第六百六十九條ノ罪

五十四　刑法大全第六百七十條及第六百七十一條ノ罪

五十五　刑法大全第六百七十二條及第六百七十三條ノ罪

五十六　刑法大全第六百七十四條ノ罪

五十七　刑法大全第六百七十六條ノ罪

五十八　刑法大全第六百七十七條ノ罪

五十九　刑法大全第六百七十八條ノ罪

六十　陸軍法律ノ罪但シ第二百七十八條、第二百八十一條、第二百八十九條第二百九十條及第三百八條ノ罪竝第二百七十九條、第二百九十

8115

テ廢止又ハ削除シタル法律ノ條項ニ依リ又ハ其ノ條項ヲ比附援引シテ處斷セラレタル者ハ之ヲ赦免ス

第三條　二罪以上俱發例ニ依リ處斷セラレタル者最重ノ罪前二條ニ該當スルトキハ他ノ罪亦之ヲ赦免ス

第四條　赦免ヲ得ルト雖既ニ徵收シタル罰金、科料、收贖金、追徵金及沒入シタル物件ハ之ヲ還付セス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國憲法第七十條ニ依ル財政上必要處分ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治四十三年八月二十九日

內閣總理大臣兼大藏大臣　侯爵桂　太郎
陸軍大臣　子爵寺內正毅
外務大臣　伯爵小村壽太郎
海軍大臣　男爵齋藤　實
內務大臣　法學博士男爵平田東助
遞信大臣　男爵後藤新平
文部大臣兼農商務大臣　小松原英太郎
司法大臣　子爵岡部長職

勅令第三百二十六號

菅韓國政府ニ屬スル歲入歲出ノ豫算ノ當分ノ內從前ノ儘之ヲ準用ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國憲法第七十條ニ依ル財政上必要處分ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治四十三年八月二十九日

內閣總理大臣兼大藏大臣　侯爵桂　太郎
陸軍大臣　子爵寺內正毅
外務大臣　伯爵小村壽太郎
海軍大臣　男爵齋藤　實
內務大臣　法學博士男爵平田東助
遞信大臣　男爵後藤新平
文部大臣兼農商務大臣　小松原英太郎
司法大臣　子爵岡部長職

勅令第三百二十七號

朝鮮ニ於ケル臨時恩賜ニ充ツル爲政府ハ三千萬圓ヲ限リ五分利附國債ヲ發行スルコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國憲法第七十條ニ依ル財政上必要處分ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治四十三年八月二十九日

內閣總理大臣兼大藏大臣　侯爵桂　太郎
陸軍大臣　子爵寺內正毅

外務大臣　伯爵小村壽太郎
海軍大臣　男爵齋藤　實
內務大臣　法學博士男爵平田東助
遞信大臣　男爵後藤新平
文部大臣兼農商務大臣　小松原英太郎
司法大臣　子爵岡部長職

勅令第三百二十八號

從來大藏省預金部ニ對シ韓國政府ノ負擔スル債務ハ別ニ規定ヲ設クル迄一般會計ノ負擔ニ屬セシム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕玆ニ緊急ノ必要アリト認メ樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國憲法第八條ニ依リ朝鮮ニ於ケル臨時恩賜ニ關スル件ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治四十三年八月二十九日

內閣總理大臣兼大藏大臣　侯爵桂　太郎
陸軍大臣　子爵寺內正毅
外務大臣　伯爵小村壽太郎
海軍大臣　男爵齋藤　實
內務大臣　法學博士男爵平田東助
遞信大臣　男爵後藤新平
文部大臣兼農商務大臣　小松原英太郎
司法大臣　子爵岡部長職

勅令第三百二十九號

第一條　朝鮮ニ於ケル臨時恩賜ハ明治四十三年勅令第三百二十七號ニ依リ發行シタル國債證券ヲ以テ下付ス

前項ノ國債證券ハ記名式トス但シ政府ニ於テ特別ノ事由アリト認ムルトキハ之ヲ無記名式ト爲スコトヲ得

第二條　前條ノ記名國債證券ハ政府ノ認可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ讓渡又ハ質入スルコトヲ得ス

第三條　元金償還利子仕拂證券及登錄ニ關スル取扱手續ハ大藏大臣之ヲ定ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕玆ニ緊急ノ必要アリト認メ樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國憲法第八條ニ依リ舊韓國政府ニ屬シタル歲入歲出ノ豫算ニ關スル會計ノ經理及舊韓國政府ニ屬シタル財產ノ管理ニ關スル件ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治四十三年八月二十九日

內閣總理大臣兼大藏大臣　侯爵桂　太郎
陸軍大臣　子爵寺內正毅
外務大臣　伯爵小村壽太郎
海軍大臣　男爵齋藤　實
內務大臣　法學博士男爵平田東助
遞信大臣　男爵後藤新平
文部大臣兼農商務大臣　小松原英太郎
司法大臣　子爵岡部長職

勅令第三百三十號

明治四十三年勅令第三百二十六號ニ依ル豫算ニ關スル會計ノ經理及舊韓國政府ニ屬シタル財產ノ管理ニ關シテハ當分ノ內從前ノ例ニ依ル

許可 8157 号 内閣官報局

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕茲ニ緊急ノ必要アリト認メ樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國憲法第八條ニ依リ朝鮮ヨリ移入スル貨物ノ移入稅等ニ關スル件ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治四十三年八月二十九日

內閣總理大臣兼大藏大臣　侯爵桂太郎
陸軍大臣　子爵寺內正毅
外務大臣　伯爵小村壽太郎
海軍大臣　男爵齋藤實
內務大臣　法學博士男爵平田東助
遞信大臣　男爵後藤新平
文部大臣兼農商務大臣　小松原英太郎
司法大臣　子爵岡部長職

勅令第三百三十一號

第一條　朝鮮ヨリ內地、臺灣及樺太ニ貨物ヲ移入スルトキハ輸入稅ト同率ノ移入稅ヲ課シ朝鮮ヨリ入港スル船舶ニハ噸稅ヲ課ス

第二條　移入稅ニ關シテハ關稅法、關稅定率法、保稅倉庫法及稅關假置場法ヲ噸稅ニ關シテハ噸稅法ヲ準用ス

第三條　朝鮮ヨリ移入スル貨物中外國ヨリ輸入スル場合ニ於テ內國稅ヲ課スヘキモノアルトキハ外國ヨリ輸入スルモノニ準シ內國稅ヲ課ス

第四條　外國ニ輸出スル貨物ニ關シ內國稅ヲ免除若ハ下戻シ又ハ交付金ヲ下付スルコトヲ定メタル規定ハ之ヲ朝鮮ニ移出スル貨物ニ準用シ外國ヨリ輸入シタル貨物ニ關シ輸入稅ヲ下戻スヘキコトヲ定メタル規定ハ之ヲ本令ニ依リ移入稅ヲ課セラレタル貨物ニ準用ス

第五條　內國稅法中同法ヲ施行セサル地ヨリ同法施行地ニ貨物ヲ移入スルコトヲ禁止シタル規定ハ朝鮮ヨリ移入スル貨物ニ之ヲ適用セス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕內地、臺灣及樺太ト朝鮮トノ間ニ通航スル船舶ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治四十三年八月二十九日

內閣總理大臣兼大藏大臣　侯爵桂太郎
遞信大臣　男爵後藤新平

勅令第三百三十二號

內地、臺灣及樺太ト朝鮮トノ間ニ通航スル船舶ハ開港ニ由リ出入スヘシ前項船舶ノ開港出入ニ關スル手續ハ外國貿易船ノ例ニ依ル

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕茲ニ緊急ノ必要アリト認メ樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國憲法第八條ニ依リ內地、臺灣及樺太ト朝鮮トノ間ニ出入スル船舶及物件ノ檢疫及取締ニ關スル件ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治四十三年八月二十九日

內閣總理大臣兼大藏大臣　侯爵桂太郎
陸軍大臣　子爵寺內正毅
外務大臣　伯爵小村壽太郎

勅令第三百三十三號

內地、臺灣及樺太ト朝鮮トノ間ニ出入スル船舶及物件ノ檢疫及取締ニ關シテハ別ニ法令ヲ以テ規定スル迄從前ノ例ニ依ル

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕韓國勳章及記章ノ佩用ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治四十三年八月二十九日

內閣總理大臣　侯爵桂太郎

勅令第三百三十四號

舊韓國ノ勳章及記章ハ當分ノ內之ヲ佩用スルコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕特許法等ヲ朝鮮ニ施行スルノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治四十三年八月二十九日

內閣總理大臣兼大藏大臣　侯爵桂太郎
陸軍大臣　子爵寺內正毅
外務大臣　伯爵小村壽太郎
海軍大臣　男爵齋藤實
內務大臣　法學博士男爵平田東助
遞信大臣　男爵後藤新平
文部大臣兼農商務大臣　小松原英太郎
司法大臣　子爵岡部長職

勅令第三百三十五號

左ニ掲クル法律ハ之ヲ朝鮮ニ施行ス

一　特許法
二　意匠法
三　實用新案法
四　商標法
五　著作權法

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕茲ニ緊急ノ必要アリト認メ樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國憲法第八條ニ依リ特許法、意匠法及實用新案法ヲ朝鮮ニ施行スルコトニ關スル件ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治四十三年八月二十九日

內閣總理大臣兼大藏大臣　侯爵桂太郎
陸軍大臣　子爵寺內正毅
外務大臣　伯爵小村壽太郎
海軍大臣　男爵齋藤實
內務大臣　法學博士男爵平田東助
遞信大臣　男爵後藤新平
文部大臣兼農商務大臣　小松原英太郎
司法大臣　子爵岡部長職

許可 8157 号 特許局

勅令第三百三十六號

第一條　本令施行前特許法、意匠法又ハ實用新案法ニ依リ發生シタル特許權、意匠權又ハ實用新案權ノ效力ハ朝鮮ニ於テ同一ノ事項ニ付特許權、意匠權又ハ實用新案權ヲ有スル者アル場合ニ於テハ朝鮮ニ及ハサルモノトス

第二條　韓國特許令、韓國意匠令又ハ韓國實用新案令ニ依リ發生シタル特許權、意匠權又ハ實用新案權ハ特許法、意匠法又ハ實用新案法ニ依リ發生シタル特許權ノ效力ハ本令施行前同一ノ事項ニ付特許法、意匠法又ハ實用新案法ニ依リ發生シタル特許權、意匠權又ハ實用新案權ヲ有スル者アル場合ニ於テハ朝鮮以外ニ及ハサルモノトス

第三條　本令施行ノ際同一人ニシテ同一發明ニ付特許法及韓國特許令ニ依リ發生シタル特許權ヲ有スルトキハ其ノ存續期間ノ短キモノハ消滅スルモノトス

第四條　特許法ニ依リ發生シタル特許權ノ效力ハ朝鮮ニ於テ、第二條第一項ノ規定ニ依ル特許權ノ效力ハ朝鮮以外ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニ及ハス

一　本令施行ノ際現ニ其ノ發明實施ノ事業ヲ爲シ若ハ設備ヲ有スル者又ハ其ノ承繼人ノ特許發明ノ實施

二　本令施行ノ際現存スル物及前號ニ依リ製作シタル物

第五條　韓國特許令ニ依リテ爲シタル處分、手續其ノ他ノ行爲ハ特許法ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第六條　前三條ノ規定ハ意匠又ハ實用新案ニ關シ之ヲ準用ス

第七條　韓國特許令、韓國意匠令及韓國實用新案令ハ之ヲ廢止ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕玆ニ緊急ノ必要アリト認メ樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國憲法第八條ニ依リ商標法ヲ朝鮮ニ施行スルコトニ關スル件ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治四十三年八月二十九日

內閣總理大臣兼大藏大臣　侯爵桂　太郎

陸軍大臣　子爵寺內正毅
外務大臣　伯爵小村壽太郎
海軍大臣　男爵齋藤　實
內務大臣　男爵後藤新平
遞信大臣　男爵平田東助
文部大臣兼農商務大臣　小松原英太郎
司法大臣　子爵岡部長職

勅令第三百三十七號

第一條　本令施行ノ際同一人ニシテ同一商品ニ使用スヘキ類似商標ニ付商標法及韓國商標令ニ依リ發生シタル商標權ヲ有スル場合ニ於テハ其ノ商標ハ聯合商標トス

第二條　商標法ニ依リ發生シタル商標權ハ朝鮮ニ於テ、韓國商標令ニ依リ發生シタル商標權ハ朝鮮以外ニ於テ本令施行後六月間ハ其ノ商標ト同一又ハ類似ノ商標ヲ使用シタル商品ヲ交付若ハ販賣シ又ハ交付若ハ販賣ノ目的ヲ以テ所持スル者ニ對抗スルコトヲ得ス

第三條　商標カ商標法第二條第四號又ハ第五號ニ該當スル場合ニ於テハ商標法ニ依リ發生シタル商標權ハ朝鮮ニ於テ、韓國商標令ニ依リ發生シタル商標權ハ朝鮮以外ニ於テ其ノ效力ヲ有セス

第四條　明治四十三年勅令第三百三十六號第一條乃至第三條及第五條ノ規定ハ商標ニ關シ之ヲ準用ス

第五條　韓國商標令ハ之ヲ廢止ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕玆ニ緊急ノ必要アリト認メ樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國憲法第八條ニ依リ著作權法ヲ朝鮮ニ施行スルコトニ關スル件ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治四十三年八月二十九日

內閣總理大臣兼大藏大臣　侯爵桂　太郎

陸軍大臣　子爵寺內正毅
外務大臣　伯爵小村壽太郎
海軍大臣　男爵齋藤　實
內務大臣　男爵後藤新平
遞信大臣　男爵平田東助
文部大臣兼農商務大臣　小松原英太郎
司法大臣　子爵岡部長職

勅令第三百三十八號

韓國著作權令ニ依ル登錄ハ之ヲ著作權法ニ依ル登錄ト看做ス

韓國著作權令ハ之ヲ廢止ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕朝鮮ニ於ケル特許辨理士ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治四十三年八月二十九日

內閣總理大臣兼大藏大臣　侯爵桂　太郎

陸軍大臣　子爵寺內正毅
外務大臣　伯爵小村壽太郎
海軍大臣　男爵齋藤　實
內務大臣　男爵後藤新平
遞信大臣　男爵平田東助
文部大臣兼農商務大臣　小松原英太郎
司法大臣　子爵岡部長職

勅令第三百三十九號

韓國特許辨理士令ニ依ル登錄ハ特許辨理士令ニ依ル登錄ト看做ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○制令

朝鮮ニ於ケル法令ノ效力ニ關スル件明治四十三年勅令第三百二十四號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ經テ玆ニ之ヲ公布ス

明治四十三年八月二十九日　　統監　子爵寺內正毅

制令第二號

仁川濟物浦、鎭南浦、木浦、群山、馬山浦及城津ニ於ケル各國居留地竝仁川、釜山及元山ニ於ケル淸國居留地ノ行政ハ警察ニ關スル事項ヲ除クノ外當分ノ內從前ノ例ニ依ル

理由

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朝鮮ニ於ケル關稅及移出入稅ニ關スル件明治四十三年勅令第三百二十四號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ經テ玆ニ之ヲ公布ス

明治四十三年八月二十九日　　統監　子爵寺內正毅

制令第三號

第一條　外國ヨリ朝鮮ニ輸入スル貨物及朝鮮ヨリ外國ニ輸出スル貨物ニ付テハ當分ノ內從來ノ稅率ニ依リ輸出入稅ヲ賦課ス

第二條　內地、臺灣及樺太ヨリ朝鮮ニ移入スル貨物ニ付テハ當分ノ內從來ノ輸入稅ト同一ノ稅率ニ依リ移入稅ヲ賦課ス

朝鮮ヨリ內地、臺灣及樺太ニ移出スル貨物ニ付テハ當分ノ內第一條ノ輸出稅ト同一ノ稅率ニ依リ移出稅ヲ賦課ス

第三條　外國竝內地、臺灣及樺太ヨリ入港スル船舶ニ對シテハ當分ノ內從來ノ稅率ニ依リ噸稅ヲ賦課ス

第四條　輸出入及移出入ノ貨物及出入船舶ノ取扱ニ關シテハ當分ノ內從來ノ輸出入貨物及船舶ノ取扱ニ關スル例ニ依ル

許可 8115 号 物品名称

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

地稅等ノ特別免除ニ關スル件明治四十三年勅令第三百二十四號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ經テ玆ニ之ヲ公布ス

明治四十三年八月二十九日　　統監　子爵寺内正毅

制令第四號

第一條　左ニ揭クルモノハ特ニ其ノ納入又ハ還納ノ義務ヲ免除ス

一　本年分地稅ニシテ平安南北及咸鏡南北ノ四道ハ第二期其ノ他ノ各道ハ第一期ニ納付スヘキ額ノ五分ノ一

二　隆熙二年分以前ノ地稅ニシテ本令施行ノ日迄ニ未納ニ屬スルモノ

三　隆熙三年法律第十四號第一條ニ揭クル欠逋金ニシテ本令施行ノ日迄ニ未納ニ屬スルモノ

四　隆熙三年以前ノ貸付ニ係ル社還米ニシテ本令施行ノ日迄ニ還納未濟ニ屬スルモノ

第二條　前條第三號ニ依リ免除シタル欠逋金ニ付提供シタル擔保物件アルトキハ之ヲ擔保提供者ニ還付スヘシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○省令

宮内省令第八號

華族懲戒委員互選規程ハ勅裁ヲ經テ之ヲ廢止ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス　　宮内大臣　子爵渡邊千秋

宮内省令第九號

明治四十年宮内省令第四號華族懲戒委員會規則ハ之ヲ廢止ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス　　宮内大臣　子爵渡邊千秋

宮内省令第十號

明治四十年宮内省令第九號大臣官房分課規程中左ノ通改正ス

明治四十三年八月二十九日　　宮内大臣　子爵渡邊千秋

第二條中第二號ヲ削ル

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○宮廷録事

○王族及公族稱呼　王族及公族ノ稱呼左ノ通御治定相成リタリ

昌德宮（シヤウトクキウ）李（リ）王殿下（ワウ）

德壽宮（トクジユキウ）李太王（リダイワウ）殿下

王世子（ワウセイシ）李（リ）堈（カウ）殿下

李（リ）堈（カウ）公（コウ）殿下

李（リ）堯（キヤウ）公（コウ）殿下

許可 8157 号